

10月避難訓練 実施案

堀船小学校 生活指導部

1 ねらい

- ・地震発生時の基本的行動を身に付けさせる。
- ・地震の後、余震が発生した場合の基本的避難行動を身に付けさせる。
- ・放送が使用できない場合の対応を身に付けさせる。

2 日時

令和6年10月10日(木) 9:40～10:10(特時2校時授業中)

3 準備物(担当)

放送(副校長) 児童数確認表(副校長) 出席簿(担任)

4 避難経路の制限

制限なし。(各教室で避難行動を取り、人員確認を行う)

5 校内巡視の担当

1階…事務 2階…主事 3階…主事 4階…主事

6 訓練の実際

- ① 3校時授業中に放送が入る。
- ② 職員、児童は私語をやめ、指示命令を聞き、おかしもの約束を守り、速やかに避難行動をとる。
- ③ 停電発生→児童対応をしていない教職員で人員確認・伝達。
- ④ 余震発生→避難行動
- ⑤ 校長講話(放送)

【想定】

- ・3校時授業中の地震発生
- ・地震で停電発生→放送機器×
- 【避難場所】各教室
- 【雨天時】教室で待機

	・時間の推移 ◇管理職の動き	○教職員の動き ■校内巡視の動き	・児童の動き
事前指導		○予告あり(日時・停電) ○余震の発生・回数については予告しない。 ○地震(余震)発生中の効果音を安全指導日に児童に聞かせておく。	・地震発生時の避難行動、余震発生時、停電時の対応について確認する。 ・地震発生中の効果音を確認する。
避難訓練	【事案発生】 ◇緊急地震速報+地震の効果音を流す。(副校長) (停電・放送機器使用×想定) ◇児童対応をしていない教職員に、校内巡視の指示を出す。 ・余震(1回目) ◇地震の効果音を流す。(副校長)	○窓を開ける。カーテンを閉める。 ○地震の効果音が流れている間は、揺れている想定で指示を出す。 →地震の効果音が鳴り止んだら、防災頭巾を被るよう指示を出す。 ○児童が避難行動を取っている間に、教室の電気を消す。 ■職員室に集合する。 →管理職の指示の元、各学級の人員確認を行う。その際、学年主任は職員室に集合するよう伝達する。 ○地震の効果音が鳴ったら避難行動を取らせる。 ■人員確認(校内巡視) 「訓練。訓練。地震です。各学級で人員確認を行ってください。」 「学年主任の先生は、職員室に集合してください。」 ※体育館で授業をしている学級の人員確認も行う。 ○担任は人員報告する。 「●年●組 在籍●名、欠席●、異状なし。」 ○学年主任は職員室に集合する。 (本部に報告に行く際、廊下等の安全確認を行う。)	・教室等で指導を受けている。 ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所で避難行動を取る。 ・防災頭巾を被り、自席に座る。 ・教室で避難行動を取る。 ※余震発生中はそれぞれ避難行動を取る。 ※揺れが収まったら、人員確認を再開する。
	◇学年主任が集まり次第、今後の対応を伝える。(校長) 「このまま教室待機です。」 ・余震(2回目) ◇地震の効果音を流す。(副校長)	○2回目の余震が収まったら、学年主任は教室に戻る。 →学年の先生に情報を伝達する。 「このまま教室待機です。」	・教室で避難行動を取る。 ・教職員の指示に従い、安全確認が終わるまで、教室で待機する。

	・校長講話（放送）	○教室の電気をつける。	・講話を聞く。
事後指導		○自助の大切さを伝える。	・振り返りカードを使いながら今日の訓練を振り返る。

- 留意事項
- ・身近にある場合、防災頭巾、ヘルメットを着用する。
 - ・児童不在があった場合、担任または学年の先生が不在児童を探す。
（担任が不在児童を探すために、教室から離れる場合は、学年の先生に伝える）
- ※図工・音楽の授業中は、児童を在籍学級に誘導し、担任に引き継ぐ。
※少人数算数は各担当が誘導し、各学級に児童を誘導し、在籍学級で人員確認を行う。

**担任(学年主任)が学級から離れる場合、
子供だけにならないようにする！**

（例）同じ学年や、隣の学級に伝えて、一緒に見てもらう

（例）体育館や理科室など、離れたところにいる場合は、別の教員に来てもらう